



中国でも大きく報じられた宮城県・女川町の水産会社を取材した「家族的経営と日本語教育」ほか、
日本語教育にできることを考える特集「日本語教育という名の希望」

『月刊日本語』3・4月合併号

<2012年2月9日(木)発売>

株式会社アルク(東京都杉並区永福 代表:平本 照麿、以下アルク)より、日本語教育の実用情報誌『月刊日本語』最新号のご案内を申し上げます。本誌は、日本語を教えたい方々を応援する、唯一の実用情報誌です。1987年12月に創刊した『月刊日本語』は、本号で25年の歴史に幕を閉じ、5月に季刊誌として誌名も新たにリニューアルします。

国際化が進む社会の中で、日本語教育にできることを考える

【特集】日本語教育という名の希望



月刊誌の最終号を飾る特集では、巻頭に日本語教育界をけん引する識者の対談を掲載。また、中国人の技能実習生たちを救った後、津波に流された専務の話が中国でも大きく報じられた女川町の佐藤水産で行われていた、中国人実習生への日本語指導のルポタージュを取り上げています。その他、耳の聞こえないハンデを乗り越え、日本語教師デビューを目指す女性のインタビューや、『人口激減 — 移民は日本社会に必要である』著者による移民問題講への提言なども掲載しています。

<特集内容>

- ◆人・地域・社会・世界とつながるために **今こそ、日本語教育!**
- ◆宮城県・女川町の水産会社の **家族的経営と日本語教育**
- ◆赤塩千春さんの挑戦
ろう者の外国人と子どもたちに「日本語」を教えたい
- ◆日本の再活性化に向けて
移民受け入れと日本語教育関係者の役割

【定価】740円(税込)
【サイズ】B5判
【雑誌コード】13371-04

『月刊日本語』がリニューアル!

日本語を教えたいあなたに贈る応援マガジン『日本語教育ジャーナル』(5・8・11・2月の9日発売)

東大秋入学検討に見られる留学生の受け入れ強化や、企業における外国人採用の本格化など、社会全体のグローバル化が進んでいます。また、ここ数年、国も受け入れを積極的に後押しする政策を発表してきました。少子高齢化が進む中、外国人を受け入れ、多文化共生社会を築いていくのが、日本社会がこれから迎える未来だといえます。

『日本語教育ジャーナル』では、日本語学校や大学で活躍する日本語教師だけでなく、地域の日本語ボランティアに参加している方や、海外で日本語を教えたい方に向けた情報も多く掲載する予定です。

1: 特集がボリュームアップしてさらに魅力的に!

リニューアル第1号夏号の第1特集のテーマは、「成功する日本語教師とは」。第2特集は、日本語学習熱の高まりが報じられているベトナムからの現地レポートをお届けします。

2: 強力な連載陣がスタート!

■本リリースについてのお問合せ、見本誌のご請求、編集部への取材依頼などは下記までご連絡ください■

【編集部への取材も歓迎!】国内外の日本語教育や、日本に暮らす外国人の事例を取材し続けています。

株式会社アルク 広報部 (担当:河合、池田) e-mail: ko-ho@alc.co.jp 電話:03-3323-3521